

令和6年度第2回 第3次半田市地域福祉計画策定委員会会議要旨

開催日時	令和7年3月17日（月）	15時30分～17時00分
開催場所	半田市役所 庁議室（4F）	
会議次第	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 (1) 報告事項 ①市民アンケート調査結果について (2) 協議事項 ①専門部会の設置について ②専門部会長の選任について 4. その他（連絡事項等） (1) 共助の地域づくり事業の評価について (2) その他	
出席者	【委員】 ◎は委員長 ◎原田 正樹、関 鋼太郎、中村 力章、今井 友乃、井戸 千尋、 森川 武彦、立石 佳輝、棚野 敬子、柴田 将人、山田 伸吾、 田窪 英樹、榊原 かおる 【半田市 関係課】 福祉部長 竹部 益世、生活援護課長 長谷川 信和、 高齢介護課長 沢田 義行、健康課長 竹内 健、子ども育成課長 小林 徹、 子育て相談課長 三輪 象太郎、学校教育課指導主事 高橋 直登 【半田市社会福祉協議会】 事務局長 小野田 靖、事務局次長 前山 憲一、 障がい者相談支援センター長 加藤 恵 事務局 地域福祉課長 山本 勇夫、村上 裕子、清水 太士、川口 一美、 加藤 裕加、黒野 隼	
次第	議事概要	
1. 開会	（地域福祉課長） ・令和6年度第2回半田市地域福祉計画策定委員会を開会します。 ・本日は、半田市区長連絡協議会の石井委員・半田保健所の山崎委員・半田子ども・子育て会議の天野委員が欠席です。 ・委員15名中、12名の出席があり、半田市地域福祉計画策定委員会設置要	

	領第 7 条第 2 項に規定する半数以上の出席があることから本会議は成立しています。
2. 委員長あいさつ	(地域福祉課長) ・原田委員長、挨拶をお願いします。 (原田委員長) ・市民アンケートの結果を報告いただき、課題を整理し、今後どのような施策をしていくべきか、専門部会を立ち上げて議論を積み上げていくことになります。そのために、本日は委員の皆さまからご意見を賜り、半田の地域福祉の現状と課題を議論していきたいです。 (地域福祉課長) ・半田市地域福祉計画策定委員会設置要領第 7 条第 1 項により、委員会の会議の議長は委員長がなると規定されておりますので、これからの議事進行につきましては原田委員長にお願いいたします。
3. 議事	(原田委員長) ・報告事項①市民アンケート調査結果について、今後、分析を深める必要箇所もありますが、現時点での結果報告をいただき、半田市民が感じている現状や課題について深めていきたいと思います。事務局から説明をお願いします。
(1) 報告事項 ①市民アンケート調査結果について	(事務局〈市〉) ○資料 別冊 により説明。 (原田委員長) ・半田市の市民アンケートは、地域福祉計画を策定する都度、類似した項目で実施しており、比較ができているため、とても貴重なデータです。今回の結果だけで一喜一憂するのではなく、全体の傾向を定めながら半田市の地域福祉がどのような現状か確認する必要があります。 ・今回のアンケート結果より、10 年間で大きな変化が出ているのを改めて感じました。近年、孤独・孤立が進んでいることは、普段の支援で感じていると思いますが、アンケートの中でも一人暮らしが増加し、頼る人もおらず、将来への不安がすごく増大していることが示されています。高齢の世代だけでなく、若い世代でもこのような傾向があります。孤独・孤立が良くないのではなく、それを踏まえて、第 3 次地域福祉計画をどのように作っていくか議論いただきたいと思います。 ・市民アンケート調査全体での質問はありますか。 (中村委員) ・有効回収率が低いことが気になります。P T A 等でもアンケートを実施しますが、回

答率が低いと感じます。様々な活動をする中で、「知らない・聞いてない」という方はアンケート等返信していない方が多いと感じています。アンケートの返信がない約 70%の方は、地域に無関心で、自分が困った際になんとかなればよいと思っている人が多いのか気になります。人への周知の難しさを感じました。

・この回答率の中で、性別や年齢層に分けた際に回答率がどのように変化しているのか知りたいです。

（事務局）

・アンケートを発送した 2,000 件は、半田市の世代別の人口比に沿っています。

・世代別の回答比率は、概ね発送数に対しての比率となっているため、関心度は若い世代が低いということではないと認識しています。

・前回の委員会で、外国籍市民の話がありましたが、外国籍市民の方に各語に翻訳をつけてお送りした 6 7 件のうち、7 件の返信でした。外国籍市民からの回答は少ない結果となりました。

（原田委員長）

・市民アンケートは、実態ではなく、傾向としてとなります。実態となると、アンケート方法を聞き取りにする等、しない限り難しいです。このようなアンケートには回答できる人しか回答しないと思いますが、前回、前々回と比較しても回答率は、特段変化していないので傾向としては活用できると思います。今後、施策を考えていくには、傾向を実態と即して、これでよいか確認していく必要があります。

・全体として関心がないという結果が高くてでいますが、それでも回答があった 3 割の方ということ、7 割の方はもっと関心がないことも視野に入れていく必要があります。

・アンケート結果から特に課題と捉えられるテーマについて委員の皆さまからご意見を頂戴したいと思います。テーマについて、事務局から説明をお願いします。

（事務局〈市〉）

○資料 別添資料 1 により説明。

（原田委員長）

・④のテーマは、アンケート結果からではなく、全体を通して、若者世代を横断的にみてご意見をいただきたいです。

・4 つのテーマについて、現状や事例、解釈等ご意見をいただきたいと思います。

① 孤独・孤立な状態を少しでも軽減するために、どのような取組が必要か。

（関委員）

・孤独・孤立の問題は民生児童委員協議会の問題であると感じています。一人暮らしについて、肌感覚では増えていると感じていたが、数字を見て驚いています。

・「困ったときに誰に相談しているか」という設問で、民生委員・児童委員の割合が減少傾向であるという事実があり、民生委員の顔が周知されていないと感じました。半田市としても、周知方法を考えていかななくてはいけないと思います。地域で誰に相談してよいかわからない方も多く、我々がその立場となる体制を直近の課題として取り組むべきであると感じます。

・現在、地域の方と民生委員の関係が希薄になってきてしまっており、気軽に訪問ができなくなっています。行政からの指示（ツール）等があると、訪問が行いやすいため、民生児童委員協議会に依頼できることを何か提示してほしいです。訪問等可能なエリアから、地域にいる一人暮らし高齢者を民生委員が把握していくことを始めないといけな

いと痛感しました。

（原田委員長）

・一人暮らし高齢者との関係を作るきっかけのツールを作り、それから繋がりを作っていくことは、地域福祉計画ができる前にやっていけると思います。

（中村委員）

・市報等で民生委員の PR を行うことや、区長と民生児童委員を紹介するチラシを配布することもできると思います。

・普段家族はいるが、日中は一人という世帯もあり、家族がいるから大丈夫とも言い切れないと思います。

・相談する際の問い合わせ先について、内容によって連絡する先が異なると、相談をあきらめてしまう方もいると思うので、できるだけわかりやすくする必要があります。

（原田委員長）

・アンケートの一人暮らしの数以上に、昼間は一人暮らしという方がいることも大切になってくると思います。

（今井委員）

・法人の対象者が身寄りのない方で、増大していると日々感じています。

・アンケート結果から、世帯構成が大きく変わっていることに驚いており、現在大丈夫なことも、数年で変わってしまう怖さを感じました。

・反面、ある程度の方には制度等が届いていており困っていないと感じました。ただ、今は困ってなくても、今後のために啓発することが大切であり、長生きしても安心して暮らしていけるようにしていく必要があります。

・高齢者の IT 利用が遅れている話もありますが、最近、高齢になっても使用している方も多いため、上手く使っていくことが必要となります。

（井戸委員）

・若者中心に支援していますが、人と関わりたくないなど、自分から壁を隔てて孤独を選ぶ若年層が多いと感じます。また、電話が苦手な若年層が多く、電話のない仕事がしたいと話す人が多いです。基本、メール等で連絡を行う若者が多く、コミュニケーション

の違いがあると感じています。

- ・若者支援等、見えていないことを救うには、個別アプローチが必要となっていきます。

（原田委員長）

- ・P18 の「活動したことがなく、今後も活動しないと思う」と答えた若者が多く、背景には井戸委員のお伝えいただいた、今の若者のコミュニケーションの違いがあると感じます。

- ・若者たちの支援をするためには、居場所さえ作ればよいのではなく、目的やプログラムをきちんと整理することが大切です。

- ・地域活動への無関心化は若者だけではなく、大人の世代も増えてきており、時代のせいと考えてきた部分があるが、現在よりも一人暮らしが増え、状況が厳しくなる際のセーフティーネットをどのように考えていくか大切になってきます。

（森川委員）

- ・孤立を感じることはよくないため、地域と繋がりを持てたら良いと考えますが、一人暮らし高齢者にも、様々な方がおり、自ら望んで孤立している人も一定数いるのではないかと思います。その方が地域へ出たいのか、孤立は感じていても幸せだと思っている人もいるのかもしれないため、最低限の見守り体制などセーフティーネット的な機能があると良いと感じました。多様な方がいる中で、様々なパターンで対応していくことが大切です。

（榊原委員）

- ・高齢者のみが孤独を感じているだけではないと思います。

- ・地域の方の考え方が昔とは違い、地域の中で「干渉されたくない」、「関わりたくない」、「詮索されたくない」という声をよく聞き、そこを打開するのは非常に難しいと感じます。

- ・人と関わらなくても情報は手に入り、困らない世の中となっています。しかし、人と関わらずに生きていくことは困難であり、自分が今まで活動してきた財産として、困ったときに気軽に相談できる関係が築けているため、それをみなさんに知っていただきたいと感じています。様々な方と関われば気軽に相談できる糸口が見えてくるのは明らかです。

（山田委員）

- ・関心があることに焦点をあててアクションを起こしていくと良いのではないかと思います。関心があることでないと目を向けてくれないと感じます。

（柴田委員）

- ・孤独・孤立の軽減は難しいため、借金、ギャンブル、課金、詐欺、自死、病気など、孤独・孤立から生じる様々な被害に陥らない助けられる仕組みを作っていく必要があります。

（棚野委員）

- ・体操を通じて地域の方と仲間づくりをしているが、現在、体のフレイルだけでなく、社会的フレイルの予防を紹介することを担っています。

・近所づきあいがなく、災害があった際等に助け合える関係づくりができていないと感じます。

（立石委員）

・家族がいるから孤独・孤立ではないということではなく、信頼できる人がどれだけいるかが大きいのではないかと感じました。

②地域の担い手不足への対応としてどのような人材、地域、社会にアプローチしていく必要があるか。

（田窪委員）

・働ける居場所づくりを行っており、引きこもりの方や社会との関係を結ぶのが苦手な方が多い中、商店街の清掃や河川の清掃等、地域活動について提案したところ、積極的に取り組んでおり、今までできなかった社会体験になっています。

（立石委員）

・事業所で、地域のお助け隊に加入し、地域の方と一緒に活動している中で、活動している方が高齢となり減少傾向で、世代間の差もあることから、次の世代の入りづらさを感じます。

・事業所としては、障がいのある方にとって、限られた職員だけでなく、地域の方から褒められる経験は大切でとても良い経験だと感じています。

・大学生のボランティアについて、煩わしい手続きがあると参加が少なくなると思うので、初期導入のハードルをどう下げるかを考える必要があります。

③ 今まで取り組んできた「ふくし相談窓口」について、実際にやってみてどうか。

また、今後、どのように相談体制を築いていく必要があるか。

（森川委員）

・ふくし相談窓口を設けているが、「なんでも相談」として来る方はおらず、知名度が低いこと、そんなに困っていないこと、が理由なのではないかと感じています。最低限の困りごとなどは、市役所や社会福祉協議会等でキャッチできているのではないかと感じています。

・今後、「ふくし相談窓口」について、周知することは必要であるが、核となる相談窓口（市役所や社会福祉協議会）があり、見逃さないような様々な相談窓口があればいいのかなと思います。

（田窪委員）

・ふくし相談窓口へと相談はないが、イベント等で話をしていく中で、相談に繋がることがあります。

（山田委員）

・NPOでふくし相談窓口を掲げているが、相談はほぼなく、活用について、今後検討

していく必要があると感じます。相談員の巡回や、事業所へのレク等も必要なのではないのでしょうか。

（立石委員）

・施設に相談に来るのはハードルが高く、なかなか相談に来られないと感じています。ならわのふらっとスペースの相談員として職員派遣をしているが、そのようなやり方の方が来るのではないかと思います。

④ 若者の居場所や活躍の場をどのように広げていくと良いか。

（関委員）

・「あなたに子どもの声が届いていますか」という詩がありますが、子どもの声を親がきちんと受け止めることが一番大切だと思います。

（中村委員）

・全国的に不登校が増加しておりますが、不登校にも様々で、「学校に行かないでもいい」と言っている親の中でも、本当に心配して行かないで良いと言っている親と、学校は意味がないので行かなくても良いという親もいます。家庭環境が重要となり、背景としては、親世代が忙しすぎる現状があると感じます。家庭環境を整備しないと難しいと思います。

・親世代について、ボランティアや地域活動には課題が多いと感じています。子どもに対して希薄なため、親に対してもそれ以上となり、身寄りのない高齢者が増えているのではないかと感じます。30～50代の福祉的な仕組みが必要なのではないかと感じます。

・部活動改革について、PTAとしても、様々な子どもたちの居場所が必要だと感じています。

（原田委員長）

・地域福祉計画というよりも、半田の地域福祉について、何をコンセプトにしていくべきかに繋がってくる話だと思います。

・半田で生きていく、暮らしていく市民の方に対して、地域福祉計画を通してどのようなメッセージを送っていくのか、大切なところです。

（井戸委員）

・不登校児が増加傾向にあり、居場所はとても大切であると感じています。不登校を否定しているのではなく、不登校の状態でも何もしないことがよくないと思います。そして、ただ居場所があるだけではなく、その居場所で役割があることが大切であると感じます。その先の働く、社会へ出る訓練ができるようにしていくことが必要です。それに加え、居場所が多くあり、選択肢がたくさんあることが大切です。

（榊原委員）

・不登校児の受け入れをしているボランティアの方が「親がしっかりしていれば大丈夫」、

	「親が焦って学校に行かせようとしたら子どもはより閉じこもってしまう、行きたくないなら行かなくてよい」と言っており、そうだと思います。親が学校に行かせないといけないと思っていると、家でも居場所がなく、引きこもってしまうが、「行けないなら行かなくてもよい」と親も気楽な気持ちで接することで、子どもも家にいても良い、と安心して明るくなります。 ・どこかに居場所があることが大切で、まずは家庭であり、家が安心できる居場所であれば、部屋に閉じこもってなかったら大丈夫、家庭が不安定であれば救済措置が必要であり、親へのアプローチも必要だと思います。 (田窪委員) ・3月になると、卒業等で居場所がない方の相談が増えており、まずはつながる場所が多くあると良いと思います。 (立石委員) ・中学、高校の次の居場所も必要であり、1か所ではなく、複数あり、それぞれ出会う人が違うことが大切だと思います。 (原田委員長) ・ありがとうございます。 ・今後計画の中に組み入れていきたいと思います。 ・アンケート結果の中で、世代の違い、意識の違い、孤独・孤立の問題が根底にあることを含めて、外国籍市民の問題も入れ込み、地域福祉の変化を踏まえたものにしていくことが大切です。 ・半田市の根底となるコンセプトをどのようにしていくのか、つながりなどをどのように表現して、それを広げていくのか考えていかなければいけません。 ・孤独・孤立が悪いことではなく、相談先がないという課題をどうするか、ふくし相談窓口という仕組みを作ってきたが、看板を掲げているだけでなく、どのような包括的支援体制を作っていくのか議論していかなければならないという課題をいただきました。
(2) 協議事項 ① 専門部会の設置について	(原田委員長) ・この委員会だけでは、議論しきれないため、専門部会を作っていきます。 ① 権利擁護・居住支援部会、②就労・参加支援部会、③災害にも強い地域づくり部会の3部会を設置し、議論していきたい。全体の総合相談については、策定調整会議で議論を深めていくこととなります。ご異議ありませんか。 (委員) ・異議なし (原田委員長)

②専門部会長の選任について	・異議なしと認めます。それでは3つの専門部会を設置することに決定しました。 ・半田市地域福祉計画策定委員会設置要領第8条第3項、専門部会は委員長が任命した部会長及び部会長が指名した部会員をもって組織する、と定められており、専門部会長は策定委員会委員から委員長が任命することとなっておりますので、これより選任をさせていただきます。 ① 権利擁護・居住支援部会の部会長に山田伸吾委員 ② 就労・参加支援部会の部会長に立石佳輝委員 ③ 災害にも強い地域づくり部会の部会長に森川武彦委員 の3名をお願いをしたいと思います。これについて、委員の皆さまのご異議はございませんか。 (委員) ・異議なし (原田委員長) ・ないようですので、部会長を担っていただく、3名の委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中、さらにご負担をおかけすることになりますが、部会員の皆さまや、関係課職員と議論を深めていただき、計画づくりを進めていただきたいと思います。 ・ありがとうございました。今後、部会のメンバーを部会長の指名により決めていくこととなりますが、今ここにおられる委員の皆さまに部会員を依頼されることもあろうかと思えます。皆さまご多忙とは思いますが、その際にはご協力をお願いします。 ・以上で本日の議事はすべて終わりましたので、進行を事務局へお返しします。
4. その他 (連絡事項等)	(地域福祉課長) ・原田委員長、ありがとうございました。 ・それでは、事務局から4その他 (1) 共助の地域づくり事業の評価について説明します。
(1) 共助の地域づくり事業の評価について	(事務局) ○資料P19～24により説明。 (地域福祉課長) ・ご不明点がありましたら、事務局の地域福祉課にご指摘をお願いします。 ・委員の皆さまから3月31日までに評価書をご返送いただき、とりまとめましたものは、令和7年度第1回の資料として報告させていただきます。

(2) その他	(地域福祉課長) ・次回の委員会は、令和7年6月11日(水) 10時00分開始、会場は市役所303・304会議室(3階)となります。 ・令和8年3月の計画完成に向けて、部会での協議、策定調整会議での議論、この全体会と、複数の会議体で議論を進め、計画を作り上げていくことになります。今後とも委員会へのご理解とご協力をお願いします。 ・これをもちまして、令和6年度第2回半田市地域福祉計画策定委員会を終了します。ありがとうございました。
	(終了)